



# 日本

## の源流再発見

猪苗代湖

### 安積疏水の開削によって大きく発展



福島県郡山市は、中核市として東北地方有数の経済圏を形成しています。その発展に大きく貢献した明治時代の安積開拓・安積疏水開削を今に伝える日本遺産「未来を拓いた『一本の水路』—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—」に猪苗代町とともに認定されています。

File 18

福島県郡山市

## 先人の遺業が色濃く残る都市

福島県のほぼ中央にあり、日本で4番目の面積を誇る猪苗代湖。磐梯山のふもとに澄んだ水をたたえ、豊かな自然の恵みを感じさせます。江戸時代までその水はすべて会津地方へ流れ、郡山(安積地方)は渇いた原野でした。当時から郡山へ水をひこうという構想はありましたが、猪苗代湖と郡山の間には奥羽山脈がそびえており、水利の問題もあって、それはまだ夢物語でした。

時代は明治へと変わり、1871年、福島県令(現在の県知事)安場保和は、欧米を視察する岩倉使節団に参加し

たことで開拓と産業振興が発展の源と確信、開拓に着手します。1873年には、県の役人だった中條政恒の呼びかけで地元の富商たちが開成社を結成。灌漑用の沼の整備や西洋農具を用いた近代的な農法の導入など、先進的な取り組みを進めます。安積開拓・安積疏水開削事業の拠点となったのが、開成館です。今は歴史を伝える資料館として整備され、移築復元された入植者住宅などとともに、当時の様子を伝えています。

1876年、岩倉使節団を副団長として率いた大久保利通は、福島県と開



水路を模したオブジェ(水・緑公園)

成社が進めてきた官民一体の開拓事業の成功に感激。殖産興業と困窮した武士を救う士族授産を結び付けたモデル事業として、安積開拓・安積疏水開削の事業案を政府に提案します。大久保氏は事業開始目前に暗殺されますが、大久保氏の開拓に対する夢は引き継がれ、全国旧9藩から旧士族



▲ 十六橋水門

猪苗代町にあり、安積原野へ水を流すため、猪苗代湖の水位を調整するために造られました。当時は16の石造のアーチでできていました。大正期に大規模な改修が行われ現在の形に。安積疏水工事で最初に工事が始まった場所です



▲ 沼上発電所

発電所の左には落差約40mの飛瀑(ひばく)があり、見応え十分。現在も一般家庭約700世帯相当の2,100kWを出力する現役の発電所です



▲ 開拓者の群像 (開成山公園内)

郡山市名誉市民で彫刻家の三坂歌一郎(みさかこういちろう)作。右5人の中に中條政恒、大久保利通、ファン・ドールンがいます



▲ 開成館

建てられた当時としては珍しい3階建て。地元の大工が洋館の錦絵などを参考に、見よう見まねで建てた擬洋風建築物です

とその家族約2,000人が入植します。1879年、猪苗代湖の水位を調節する「十六橋水門」の建設から工事は始まりました。オランダ人技師ファン・ドールン監修のもと、日本で初めて近代土木工事を疏水の設計に導入し、全長585mのトンネルを含む約130kmの安積疏水が1882年に完成しました。

1899年には、安積疏水の落差を利用した沼上発電所が完成。約23km離れた郡山市まで11,000Vの高圧電力を送るという日本初の長距離高圧送電を成功させ、日本中が驚きました。この電力により、郡山は大きく発展したとい

われています。

開成館の近くにある開成山公園は、当時灌漑用の池であった五十鈴湖を中心に、多くのスポーツ施設なども備えた郡山市民憩いの場所。春には、当時開拓者たちが子孫を思い植えた日本最古級のソメイヨシノをはじめ、約1,300本の桜が咲き誇ります。

ココに注目

日本三大饅頭の一つである「柏屋薄皮饅頭」。なかでも開成柏屋など一部店舗でのみ購入可能なできたての「薄皮職人手づくり薄皮饅頭」は絶品。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた福島県にはクラリオンマニュファクチャリングアンドサービス株式会社があります。主にクラリオンブランドの車載用音響・映像機器の他、プレス・樹脂部品などを扱っており、近年ではEMS事業の展開も行っています。

クラリオンマニュファクチャリングアンドサービス株式会社 福島県郡山市田村町金屋字下夕川原50  
<http://www.clarion.com/jp/ja/corp/cms/>